

平成25年 第5回教育委員会会議録

1 日 時

平成25年4月19日（金）

開会 16時00分

閉会 17時30分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、中村健一委員、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、
木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

村田潔教育次長、池廣巖雄教育次長、平島敏彦教育次長、表純一教育次長兼教員指導
力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、濱辺正実教育次長兼スポーツ健康課
長、金戸清外志庶務課長、齊田正活教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、中川智夫文化
財課長、

5 議案件名及び採決の結果

議案第11号 石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について
(原案可決)

議案第12号 平成25年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について
(原案可決)

議案第13号 教職員の人事について (原案可決)

6 報告案件

報告第1号 体罰に関する調査について

報告第2号 平成25年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における
入学者選抜結果について

報告第3号 平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の
結果概要について

報告第4号 平成24年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第11号から議案第13号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

報告第1号「体罰に関する調査について」（齊田教職員課長説明）

お手元の資料5ページをご覧ください。

県教育委員会では、文部科学省からの指示を受けて、平成24年4月から平成25年1月までに発生し、学校が把握した体罰で、県教育委員会でも体罰であると確認できたものについて、文部科学省に報告いたしました。

文部科学省は、この報告の全国状況を取りまとめて、公表する見込みであります。

本資料については、本県の報告の主な内容についてまとめたものであります。

資料の「1. 発生件数及び処分の状況等」をご覧ください。

平成24年4月から平成25年1月の体罰は、小学校で2件、中学校で8件、高等学校で19件で、合計で29件となっております。

また、体罰が行われた学校は22校となっております。

これらの体罰に対しては、すでに戒告1件、訓告等24件の処分が下されているところであります。

資料の「2. 体罰の場面」をご覧ください。

体罰が行われた場面については、「部活動」が最も多く12件、続いて「授業中」が7件、「休み時間」が6件などとなっております。

報告は以上ですが、このほか、体罰の事実について精査中のものや、生徒・保護者のアンケートで新たに把握したものを加えた体罰の状況については、4月30日までに文部科学省に報告する予定であります。

以上でございます。

【質疑】

（中村委員）

全国の平均と比較するとどうか。

（齊田教職員課長）

全国の状況は、まだ発表されていないので詳細は分からないが、文科省の方では2次の報告で求めている教員への聞き取り調査の分を、本県の場合は前倒しで実施して報告しているため、そのあたりの数として多めの詳細な数値があがっている。

（金田委員長）

比較はできないということだな。数値だけで比較はできないと。

(齊田教職員課長)

県によって調査の仕方が多少異なる。

(中村委員)

体罰の内容も各県共通なのだろうか。精神的苦痛も体罰ということで、例えば廊下に立たされたとか、運動場を走らされたとかが体罰になるとか、私たちの幼い頃は当たり前だったことが体罰になる。その辺のところの内容というのは難しいが。

(金田委員長)

体罰の場面、具体的なものは把握しているのか。

(齊田教職員課長)

文科省の指示に従って、場面ごとにケース分けをして報告している。

(中村委員)

その内容が、今言ったような、体を蹴ったり殴ったりといった完全な体罰から、精神的苦痛までであると思うが、その比率はどのくらいか。

(齊田教職員課長)

比率までは把握していないが、ここに出ている処分案件となっているものは、文科省のガイドラインに合致するものだ。

(金田委員長)

具体的な例を挙げてもらってもいいのだが、例えば、授業中あるいは部活動においてどのようなものがあつたのか。

(齊田教職員課長)

例えば、部活動中の指導で、競技が上手くいかなかったりとか、あるいは聞く態度が良くないということで、平手打ちをじたり、又は足で蹴ったりとか、そういうようなこともある。

(八重澤委員)

全国調査の結果というのは出ているのか。

(齊田教職員課長)

まだ出していない。

(八重澤委員)

これですっと見てみると、小中高の発達段階によって、自我をもってくと先生との軋轢が見られるのだと思う。ということは、小学校の指導の仕方、それから中高になった時

の指導の仕方についてもやはり何らかの形でまとめておくというのも大切かも知れない。特に、高校が小中学校と比べてかなりの数出てきているということだから、認知されやすいということもあるかも知れないが、そうした生徒たちの扱いは難しいものだとこれを見て思った。

(金田委員長)

精神的な苦痛というものは、具体的な例はあったか。

(齊田教職員課長)

いわゆる言葉による暴力というものはあった。

(金田委員長)

それは場面で言うと、授業中はもとより学校行事にすべてに渡ってあるということか。

(齊田教職員課長)

いろんなケースで言葉の暴力というものはあるが、今ここに含まれているものにはそういったものはない。

(八重澤委員)

中学生や高校生になると、叱り方は非常に難しく、プライドをペシャンコにする叱り方もかなりのダメージを受けるものだと思うているが、そういうものは聞き取りでは出てきているのか。

(齊田教職員課長)

そういう事例もある。非常に心が痛むような言葉による厳しい指導もある。

(金田委員長)

聞くに耐えられない言葉ということか。

(中村委員)

最近の流れとして、生徒は、先生は絶対に体罰をしない、体罰をしたら大変なことになる。それで、平気で悪いことをする子が出てきたり、逆に悪い側の先生からすると、そういう言葉による暴力、言葉でしか対応できない。だんだん先生の立場も昔からすると弱くなって、良い子に体罰をするというとか、そんなことではなくて、質問の邪魔をしたり、勉強の邪魔をしたりする子をどうしたらいいか、そこが大変打つ手が少なくなって、昔は先生が怖かったから、先生がこういったら言うことを聞くこともあったし、先生の時代というのはこれからどうなっていくのか、大変だなと思う。

(横山委員)

今もまだ精査中のものがあるということだが、この調査以外にも聞き取りの方法がある

と思うので、その辺りについて、途中経過でも構わないが、どのような状況にあるか教えていただきたい。

(齊田教職員課長)

今月末の文科省への報告に向けて 精査をしている。内容についても児童、保護者へのアンケートに加え、本県の場合、体罰110番もある。そのようなところのものも加味して事情を聞き、詳細をただいま精査中である。

(橋正委員)

体罰29件ということだが、これが多いのか少ないのか分からないが、私自身の頭の中では、もう少しあるかなあという思いがある。それでも多分これはとても多い数なんだと思うが、日頃の体罰はいかんだという指導はどのように行われているのか。

(齊田教職員課長)

今までも、初任者研修や管理職等の研修で、コミュニケーションの取り方などについて再三研修を行ってきている。今年は特に先ほどもご覧いただいた数値の中で、部活動における件数が多いので、来週になるが、県の教育センターの方で、部活動の指導者にコミュニケーション能力を高めるといこういう研修も新たに付与し、児童生徒とコミュニケーションを取れるような様々な切り口から指導力を高めていきたいと考えている。

(木下教育長)

初任者研修、管理職研修、今までも対応して指導はしてきたわけだが、もう少しコミュニケーション能力とか説得のためのスキルだとかについて、内容を充実させなければいけないだろうと思っており、一般の教諭に対してもそういう部分で、しっかりと研修なりを充実させていくということ、スポーツの部活動に関連した先生には特に、今申したコミュニケーション能力とか説得のためのスキルもそうだが、もう少し科学的根拠に基づく指導の方法であるとか技術的な指導方法、そういったもののスキルをしっかりとつけていただきたい。意識高揚だけではない、もう少し別の方法で上手く指導する方法を伝授できればと思っている。そういった多面にわたる充実をしていかななくてはと思っている。

(橋正委員)

初任者研修のような節目節目の研修はいいのだが、初任者研修の次はまた何かの研修までというのではなく、例えば、毎年毎年、年度初めに一斉に注意するようなことはしないのか。

(木下教育長)

橋正委員の言われた今のことについては、我々も体罰の案件があった、それを是非職員会議で校長自らが、体罰の撲滅の宣言をしっかりとしなさい、そういうことを注意してもらったということもあるし、先日県立学校の新任の校長に対して、校長も替わったことなので、改めて撲滅宣言を4月はじめの職員会議でしてくれるよう指示した。そういった面

で、各先生には職員会議で学校長から伝わっているのではないかと思う。

(金田委員長)

今、教育長も言われたとおり、体罰の撲滅のためにも常日頃からスキルアップ、そのための研修体系をきちんとする、それはそのとおりではないかと思う。是非、石川県の小中高等学校、特別支援学校から体罰がなくなるように、先生方自身の指導力のアップということに尽きると思うので、よろしくお願ひしたいと思う。

報告第2号「平成25年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について」

(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

資料の6頁をご覧ください。

はじめに、1の県立金沢錦丘中学校についてですが、受検倍率が、2.78倍となったなか、適性検査を平成25年1月27日に実施いたしました。

選抜方法につきましては、(2)にお示したように、小学校長から提出された調査書並びに総合適性検査、作文及び面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。

(3)選抜結果ですが、①に示しましたように、募集定員120人に対して、334人が受検し、うち、120人が合格しております。

②の郡市別内訳については、金沢市が74人と最も多く、ついで白山市・野々市市が33人となっております、これまでと、ほぼ同様の傾向となっております。

次に、資料の7頁をご覧ください。

2の石川県立公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告します。

まず学力検査等は、資料(1)にお示した期日で実施いたしました。

(2)の選抜結果であります、①の公立高等学校全日制については、募集定員8,240人に対し、推薦入学等838人、一般入学6,957人の合わせて7,795人が合格しました。

②の定時制については、募集定員480人に対して、推薦入学、一般入学合わせて211人が合格し、③の通信制については、募集定員240人に対して、33人が合格しております。

なお、定時制、通信制ともに、人数は1次募集までのものであります。

また、各学校別合格者数の状況につきましては、資料の8頁から9頁に全日制を、10頁に定時制・通信制を記載してございます。

最後に、資料の11頁の、(4)全日制の合格者の得点状況をご覧ください。

今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示したように、理科を除く4教科で、平均点が前年度を下回り、5教科合計の平均点は、239点と前年度と比べ28点下がっております。

これは、判断した根拠や理由を記述させたり、答えだけではなく、答えに至る考え方を説明させるなど、思考力や表現力を必要とする記述式の問題を昨年度より多く取り入れた

ため、平均点が低下したものと捉えております。

中学校の校長先生方からは、「やや難易度の高いところはあったが、全体に思考力を問う良問が多かった。」などの声をいただいております。

このあと、平成26年度の学力検査においても、入学者選抜が円滑かつ適切に行われるように努めるとともに、活用力を必要とする記述式の出題を通して、中学校における授業の中で身につけるべき学力の方向性を示していきたいと考えております。

以上でございます。

【質疑】

(八重澤委員)

得点分布図を書いてみると、去年は比較的成績のいいところが山だったが、今年はちょっと下に下がっている。先生方は、各教科についてもどのような傾向になっているかを手がかりに、今後取り組まれると思う。去年はきれいな山で、上の方に山があったが。思考力や表現力は苦手かも知れない。そこを補うように指導してほしい。

(中村委員)

得点が、理科以外は全部下がっているが、これは問題が難しくなって下がっただけなのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

学習指導要領に示されている活用力を高めるために、小中学校では、学びの指針12か条をもとに授業の改善に取り組んでいる。それを受けて、その成果をみようと思考力や表現力を必要とする記述式の問題を、昨年度より少し多めに出题した。まだ詳しい分析は済んでいないが、記述するのに時間がかかった生徒もいるのではと思う。いずれにしても小中学校では、このメッセージをもとに授業改善を更に進めてくれると思っている。難しかったからではなく、県全体でメッセージを送りながら活用力をつけるような取組みを進めていきたいと思う。

(八重澤委員)

理科の得点が上がったのは好ましいことだが、これは何か理由があるのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

まだ分析できていないが、理科のほうの活用力に関する問題の数は、昨年並みになっていた。この数年の傾向を見なければはっきりしないので、経過を見ていきたい。

(八重澤委員)

中学校で理科の授業が増えたという事はあるのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

昨年から新学習指導要領が全面実施となっているが、理科の授業数は若干増えている。

(木下教育長)

基本的に読解力が必要な問題を出すと、回答に時間がかかる。すると、他の問題が従来と同じような内容の問題であっても、そこに差し向ける時間が少なくなって間違った回答を出したり、手を付けられずに0点になったものもあったと聞いている。読解力を求める問題を課した場合については、1つ1つ細かく個別に分析する必要があるので、いくつか抽出して、課題があるかどうか、レベルの問題も含めてチェックするよう指示しているところだ。

(金田委員長)

是非お願いしたい。平均点が50点を割ってきているのは気になる。生徒の問題であると同時に問いかけ方の問題も問われてくるので、発問の仕方が良かったのか分析して欲しい。

(中村委員)

小説を読まなくなり、読解力やイマジネーションがなくなったりしているので、その部分のレベルは低下している。それを補っていくのが大切だ。

(金田委員長)

これからの国際社会で生きていくためには数学が大切なのだが、低くて心配だ。

(木下教育長)

低いと言ってもそれに迎合するのではなく、県としてどういった力を中学校に求めるか。これも1つのアナウンスでもあるので、中学校に点数の理由を分析してもらうことも必要だし、我々も中学校における到達度が低いためにこうなったのか、設問の問題なのか把握する必要がある。

報告第3号「平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の結果概要について」

(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

12ページをご覧ください。

本年3月末に、文部科学省から公表されました小学校5年生、中学校2年生を対象にしました「平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本県の結果概要」について、ご報告いたします。

まず、「I 調査の概要」についてでございますが、1の「調査の目的」から、4の「調査の内容」につきましては、記載のとおりです。

5の「調査の方式」につきましては、抽出調査により行われております。

この抽出につきましては、国が都道府県毎に抽出する学校数や学校を決めており、本県では、小学校で25.9%、中学校で25.2%の学校で実施されております。

6の「調査を実施した本県の学校数・児童生徒数」につきましては、記載のとおりです。

次に13ページの「Ⅱ 調査の結果」をご覧ください。

まず、1の「実技に関する調査の結果」につきまして、ご説明いたします。

①「種目別の結果」については、本県の平均値は、小学校の男女、中学校の男女のそれぞれ全ての種目、8種目ございますが、全国平均を上回っております。

②の「体力合計点の結果」であります。これは、各調査種目の記録を1点から10点に得点化した上で、8種目分を合計した得点であり、80点が満点となります。

小学校、中学校の男女ともに本県は全国平均を上回っております。

続いて、14ページをご覧ください。

2の質問紙調査の結果につきまして、主な内容をご説明いたします。

「(1) 運動やスポーツをどのくらいしていますか」という問いについては、「ほとんど毎日」、「ときどき」と回答した本県児童生徒の割合は、小学校では、男女とも全国とほぼ同程度、中学校では、男女とも全国よりやや高いという結果でした。

実際のグラフにつきましては、資料をご覧ください。

続きまして、15ページをご覧ください。

「(2) 運動やスポーツをすることは好きですか」という問いについては、「好き」、「やや好き」と回答した本県児童生徒の割合は、小学校、中学校の男女とも全国と同程度、という結果でした。

今後、本調査結果をもとに、体育の授業改善、また、全ての公立小・中・高等学校で実施している「体力アップ1校1プラン」の一層の充実を図りながら、「運動やスポーツをすることは好き」である本県児童生徒を増やしていける取り組みを充実させ、さらなる体力向上を図って参りたいと考えております。

以上でございます。

【質疑】

(八重澤委員)

先生方が忙しくなって恐縮だが、自分の健康は自分で維持に努めるという点が大切だと思うので、スポーツを全くしない、スポーツは嫌いであるという子供、生徒の対応策に配慮いただきたい。

(橋正委員)

基礎に体力がなければ学力もつかないと思うので、全国平均を上回っていることは良いことだと思った。全種目で全国平均を上回るのは、素晴らしいことなので、その原因はどこにあると分析しているのか。

(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

結果として、小学校も中学校も全種目で全国平均を超えたということなのだが、本県では平成18年から体力テストを悉皆調査にして、これは抽出だが、県独自として小中高全生徒に対して体力テストを実施している。こうしたことで、生徒たちが客観的に自分の記録あるいは得点を見られるということや、各学校がそれに基づいて1校1プランとして工夫した取り組みを行ってきたということの結果かと思う。また、それを後押しするために、

スポチャレいしかわ、これはスポーツにチャレンジするという意味だが、として、小学校の段階で取り組めるように、8の字縄跳びなど4種目考えて実施している。そのような取組みを平成20年から始めたが、当初の参加の割合が学校数で58.8%程度、クラス数で32.3%程度であったものが、平成24年度は、学校数で90%を超え、クラス数でも62%と大幅に増えている。こういうことの成果ではないかと考えている。

(横山委員)

女子については、全国平均よりも、スポーツをしていなく、好きではないと答えた割合が高いが、それでも結果を出している。男の子は野球やサッカーなどにどんどん入るのだが、女の子がもっとスポーツ好きになると更に点数が上がるのではないかと思う。

(金田委員長)

女子は、あまりスポーツは好きではないのか。

(八重澤委員)

髪型も乱れるし、汗もかくし、着替える必要もあるので面倒に思うのだろうが、それでも結果は良い点数になっている。

(金田委員長)

体力がなければ、勉強でも仕事でも意欲が萎えてしまうから、基礎的な体力は付けておくべきだと思う。これを継続的に充実していただきたい。

報告第4号「平成24年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績」について
(濱辺教育次長兼スポーツ健康課長)

平成24年度全国高等学校選抜大会等につきましては、東京都をはじめ、19都道県におきまして、平成24年12月23日から25年3月30日までの期間で各競技ごとに開催され、本県より26競技に選手365名が参加いたしました。

成績は、資料のとおり、団体では、サッカー男子の星稜高校と、相撲の金沢市立工業高校が3位、なぎなたの津幡高校と、空手道男子の小松大谷高校が5位入賞、ボウリング男子で金沢市立工業高校が6位、女子で金沢伏見高校が7位に入賞する活躍がみられました。

また、個人では、バドミントン女子シングルスで金沢向陽高校の星選手と、柔道女子70kg級で金沢学院東高校の橋高選手が見事優勝したほか、8名の選手がベスト8までに入賞いたしました。

本年7月には、北部九州ブロックにおいてインターハイが開催されることから、今回の全国大会の活躍をもとに、本県の高校生がさらに優秀な成績をあげられるよう、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深め、競技力の向上に努めてまいりたいと考えております。

【質疑】

質疑なし。

(金田委員長)

以降の審議については非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第11号「石川県公立学校教職員健康管理審査会委員の委嘱（任命）について」

齊田教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第12号「平成25年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について」

竹中教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第13号「教職員の人事について」

齊田教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。